



平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 12月号

「神さまからのプレゼント」

牧師・園長 長村亮介

「救いの御子の降誕を」

一度も高らかに

クリスマスを喜ぶ賛美歌を歌ったことがない

一度も声を出して

クリスマスを祝うあいさつをしたことがない

一度もカードに

メリークリスマスと書いたことがない

ただでだけ

雪と風のたたく部屋で

心の中で歌い

自分自身にあいさつをし

まぶたのうらに書き

救いの御子の降誕を

御神に感謝し喜び祝う

(水野源三)

水野源三さん（一九三七～一九八四）は、日本の敗戦の翌年、小学校四年生だった時に赤痢に罹り、高熱が続いて脳膜炎を起こした結果、脳性麻痺になって体の自由が奪われてしまわれました。その後一九五〇年に洗礼を受けられますが、彼の聖書の学びは真剣そのもので、イエスさまの十字架の恵みによって罪が赦され、新しく生まれ変わることを確固として信じる人となりました。

彼の詩作の方法は、五十音図を使って「瞬き」で一字一字を知らせるため、「瞬きの詩人」と呼ばれます。一八歳の時からだそうですが、それはとても根気のいることで、右にご紹介した詩を表すのにも、随分な時間が掛かったこ

とだろうと思います。

実は彼が詩人として活躍するようになったのは、お父さまが彼の俳句「庭すみの寒菊に雪降りかかる」を新聞に投稿されたのがきっかけです。しかしその後の投稿はボツばかり。そこでまずは創作の基礎やテクニクを学び、様々な詩集を読み、植物図鑑で名を覚えるという努力を重ねます。彼の名が少しずつ知られるようになるまでには、社会の厳しさも経験されたそうです。

彼の作品は、どれも優しい言葉遣いですが、ご紹介した「救いの御子の降誕を」を読むのには、彼の神さまへの溢れるばかりの感謝の思いを知らずして読むことはできません。彼がイエスさまのご誕生を喜び、その感謝の思いをみんなと分かち合うことをどれほど心から願っていたか、それができない自分を悲しく感じていたことか。しかし「ただでだけ」と、イエスさまがお生まれになった意味を見つめ直します。

使徒パウロは「コリントの信徒への手紙二二一・一〇」に、「それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。」

と記しています。たとえ「瞬き」しかできない、「風と雪がたたたく部屋」が彼の生きている世界の全てであったとしても、心には神さまへの感謝の思いが赤々と燃えているのです。

クリスマスのプレゼントは子どもたちにはもちろん、大人にとっても、すばらしい神さまからの恵みです。源三さんは、そのクリスマスの意味を、よくご存じだったので。

(参考『こんな美しい朝に』いのちのことば社)

平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 12月号